

「女性の活躍促進・企業活性化推進営業大作戦」



第28回

埼玉労働局長(阿部充)の企業トップ訪問

## 訪問企業:共和電機株式会社

〈訪問企業のプロフィール〉

共和電機株式会社

秩父市大字寺尾 3955-1

代表取締役会長 山根 益男

主な事業：建設業（電気工事・空調工事業）

労働者数：60名（うち女性5名）

平成26年11月10日、共和電機株式会社の代表取締役会長 山根 益男氏（左下写真）をお訪ねしました。

また、女性の取締役がいらっしゃるということで、取締役兼総務課課長の富田益栄様からお話をお伺いしました。



ポジティブアクション普及促進マーク

「きらら」

## この企業のここに注目!

- ・バブル時代から女性活躍に取り組む先進性!
- ・やる気を引き出す資格取得支援!
- ・パートから取締役になった女性も!

## 女性の離職対策が女性活躍の出発点

当社では女性は5人だけですが、うち1人は取締役です。また、取締役4人のうち、女性が1人と、取締役に占める女性比率は高いです。

女性の活躍に取り組みだしたきっかけはバブル時代に人手が足りず、女性に着



冗談も交えながら和やかに話し下さる山根会長と富田取締役

目したことです。当時、建設業では多くの女性が結婚や出産を機に退職していました。そこで考えついたのがホームステーション（自宅で仕事ができる仕組み）です。とはいえ、最初から軌道に乗ったわけではありませんでした。出産等で退職した女性にホームステーションをやってもらっても子育てに注力したいと数年後に辞退される

ケースが多かったですね。制度化するというより、個々人の事情に合わせて、どのような働き方ならば可能なのかを検討して、やれる仕事量を会社が提供するということです。

一方、女性の場合、どうしても結婚や育児、夫の転勤等で退職するケースがあるので、誰かがやむを得ず退職しても業務に支障が出ないように、全員がオールマイティーに活躍できるように取り組んでいるところです。

当社は正社員のみで構成しています。よく、正社員ばかりだと固定費が増え

て倒産しやすくなると言われますが、実際はむしろ逆です。バブル崩壊後当社も給与カットをするなど厳しい時期がありました。その時、「一人二人だけ助かろうと思うな。ダメになるときはみんなダメになろう。だからリストラはしない。」と社員に話しました。すると社員は皆共感して残留してくれました。これは正社員だからこそだったと思っています。社員という組織を守ってきたのが自分の最大の功績かもしれません。

## **資格取得支援でやる気を引き出す！**

当社では合格したら報奨金を出すようにして社員に資格取得を促しています。社員も張り合いが出て資格取得率が高まりました。資格取得ができると自信がついて、さらに上を目指そうと皆の意識も変わってきました。

もちろん女性にも資格取得を促しています。その結果、電気工事士の資格を取った女性や現場監督を目指して勉強中の女性がいます。今では女性が力を発揮しているので、むしろ男性の活力ややる気をいかに引き出すかの方が課題となりつつあるくらいです（笑）。今までは電気メーカーに色決めや使い勝手など考えてもらっていましたが、女性が育てば自社でできるようになると期待しています。

また、社員の自己啓発のために、月に1回社外より講師を招き、電気関係だけでなく、一般教養の社内講習を行い、各自の意識のレベルアップを図っています。

## **パートから正社員、そして役員へ**



私は高卒で銀行に入学し、その後、結婚し、第3子出産を機に退職しました。嫁ぎ先の家業や子育てに専念していましたが、縁があり当社に昭和63年にパートとして入社しました。入社当時は子供がまだ小さくフルタイム勤務は難しかったのですが、9:00~15:00という変則勤務を快く認めてもらいました。そして子供が大きくなるにつれて勤務時間を段階的に延ばしてきました。

やがて、先輩社員の仕事を引きついだのを機に正社員にさせていただきました。当時は男性が育児をする時代ではなかったので、子供

が病気の時、学校の行事、家事の都合での外出や休みを取らなければならない時など、会社の皆に迷惑をかけると気兼ねをしますが、そのような時でも、会長を始め周囲から「どんどん行ってあげなさい。」と言われ、本当にありがたく、手を合わせる思いでした。仕事を頑張らなくてはこの思いがいつそう湧いてきたものです。普通の会社ならとてもいられなかったでしょう。

ですから、会社の期待に応えられるよう、入社した頃はワープロがまだ珍しい時代でしたが、自分でも早速ワープロを買ってきて自宅で練習していました。また、建設経理士2級という資格はしっかり勉強しないと取得が難しいのですが、会社に外部講習に通わせてもらって取得しました。

家族など周囲のおかげで仕事を続けられたのです。育中は仕事をしていなければ子供にもっと手をかけてあげられたのではと感じることもありましたが、親が一生懸命仕事をする姿はきっと子供にも何か伝わると思います。家で嫌なことがあっても、仕事にすれば気持ちを切り替えられるというメリットもありますしね（笑）。



前列右が山根会長、後列右が富田取締役、前列左が阿部労働局長、後列左が絹谷雇用均等室長

## 労働局長からのエール

今日は仕事に打ち込める時間が短くとも高い意識をもって仕事をすれば、会社に認められる好例を見せていただきました。

たとえ素晴らしい制度があっても制度を利用したいと言にくい職場風土では意味がありません。各人の事情に応じた働き方ができるように柔軟に配慮する企業姿勢が従業員の皆さんに浸透しているからこそ、会社に相談しやすい雰囲気ができているのでしょう。そして会社・従業員間の信頼関係が企業発展の秘訣ですね。

パートで入社した富田様が取締役になるまでには会長の様々な声掛けや、信じて仕事を任せる後押しがあったそうですが、今度は富田取締役が後進女性を

育成中とのこと。富田取締役の後に続く女性が多く現れることを期待しています。